

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991600071		
法人名	株式会社 奉伸		
事業所名	グループホーム「アルプスのなかまたち」		
所在地	山梨県南アルプス市桃園345-3		
自己評価作成日	平成26年11月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成27年1月27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されることで、下肢筋力の低下などご本人及びご家族も心配されるところですが、体操や歩行訓練の時間など午前・午後と設け、月に1回自己目標を職員と一緒に設定し、達成に向け取り組んで行くシステムを導入することにより、皆様毎日積極的に取り組んで下さり、ご家族もその効果を感じてくださっている様です。またその中から、積極性も生まれてきているように感じます。全てとは行きませんが、利用者様方に提供するのではなく、利用者様方が主となり取り組み、出来ないところをサポートするというスタイルに変更したことにより、自室に閉じこもる方もいなくなり笑顔も多く見られるようになりました。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は南アルプス市の巨摩共立病院が隣接地域にある。開設1年未満で2ユニットの設備がされているが現在は1ユニットで生活されている。広い庭の落ち着いた住まいは家庭的な雰囲気を感じることが出来る。寄り添いの介護、役割を見つける介護、地域に貢献していく、を理念に時間的に急ぐことなく利用者に寄り添う支援が生活の至る所に見られる。パーマをかけ、髪を染めている利用者、家にいるよりも楽しい、友達がいて話が出来、いろいろお手伝いが出来る等、目を輝かせて話す利用者がある。「本人の様子を見ると生き生きとしている。」や「本人が家にいた時よりも自分から動いているようで、大きな進歩だと思っています。」等の家族の共通の声に事業所のあり方を垣間見ることが出来る。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム「アルプスのなかまたち」

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1 )	ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中にある様に、個々の利用者様が役割を持って過ごせるよう援助してくれていると思います。		寄り添いの介護、役割を見つける介護、地域に貢献していく。を理念に掲げて、管理者と職員は日々の関わりの中から共有し、月1回の会議で理念を掘り下げて実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とは行かないが、近所に散歩に出かけ近所のお饅頭屋さんで一休みしたりすることはございます。また、ホームのお庭には近所の奥様がお花を寄付してくれ植えてくれたりして、綺麗にしてくれています。		経営者が地域の方で地域情報は伝えられている。近所の巨摩共立病院の健康祭りに全員で出かけて楽しんだり、フラダンス、大正琴等のボランティアの来所もある。消防署主催の救命救急講座には地域の参加があった。おむつフITTER講座を地域住民に呼びかける予定がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設で行う研修会にご家族や地域の方にも声をかけ一緒に学べるようにしています。(平成26年11月29日:普通救命講習開催)また、施設内の催しものへの参加の呼びかけなどを通じ認知症の方々への理解を深めていただく努力をしています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	10月20日に第1回を開催したばかりにて、自己紹介や近況報告、年間予定表の配布などにとどまり、まだ深く生かせる話まで出ていないのが現状。(次回開催予定:平成26年12月19日)		平成26年3月開設。10月第1回会議は地域包括、家族代表2名、利用者代表1名、民生委員3名、職員で開催された。自己紹介、年間予定報告、施設の理解と支援の要請を仰いだ。家族からはかかりつけ医への対応が出来ない時の対応はどうするか等意見が出された。また事業所からボランティアの情報を得たいとの要望を出した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	開所当初バタバタしてしまい、先日10月20日に第1回を開催したばかりにて、自己紹介や近況報告、年間予定表の配布などにとどまり、まだ深く生かせる話まで出ていないのが現状。(次回開催予定:平成26年12月19日)		地域包括センターを通して入所している利用者の実情を細かく報告して地域に理解してもらえよう心掛けている。また事業所で行う講習会に参加する地域住民への『呼びかけの方法』のアドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には徹底教育し、「身体拘束0」をスローガンに行えています。		玄関に施錠はなく、事業所前の広い庭に自由に行き来できる。言葉を置き換えるというスピーチロック改革をし、職員会議の中で検討し『禁句集』を利用して実践につなげている。夜間のみセンサーマット使用の利用者はいるが、1時間おきの巡視で全体を把握し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会としては、最近、高齢者虐待に関する研修が多く、参加した際は報告書として開示。また職員会議にて概要を話している。事業所内でも細心の注意を払って虐待防止に努めています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員が理解できているかは分からない。研修で学んだものを報告書として開示。職員会議で概要を話している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1 )	ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行えています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けても、そこへの投稿は今まで無いが直接会話の中で引き出すよう心がけている。また得た意見を施設内で検討し、対応するとともに、意見に対して取った行動を後日必ずお伝えするようにしている。		家族が来所した際管理者が声をかけ個人的な要望・希望を聞くようにしている。運動をしてほしい等の意見があり、館内で午前、午後30分程体操をしたり、気候が良い時は中庭や近所への散歩に出かけ、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者に、職員が意見を言しやすい環境を作り、その都度意見を聞くようにはしている。その中で出来ることと出来ないことを明確にすることで無駄な労力を割かないようにしている。また、職員会議の場でも意見交換を行っている。		職員は積極的に管理者へ職員間の事や個人的な要望・希望を話している。個人面談を月1回行っている。勤務体制の要望は検討され管理者から経営者につなげている。利用者と一緒に出かける買い物や外食、カラオケ大会や運動会等の行事への提案が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力や実績を考慮し、給与に繁栄しています。またなるべく労働時間に無理が無く、やりがいが失われない様、勤務時間が不規則で大変ですが、職員みんなが助け合い、向上心とやる気を持って働ける職場環境での運営ができています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は職員個々の参加希望を大切にシフトを構成している。参加した職員には報告書や職員会議にて概要を報告してもらっている。また、平素より介護技術で疑問に思う事、目に付いたことは体感できるように指導している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの施設への見学訪問を職員が行う機会を設け、意見交換や情報交換をしたり、職員に協会主催の研修などに参加してもらって、参加した際個々の交流をしたりして、ネットワーク作りから、サービスの向上をする取り組みを出来る限りしている。			
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の困っている事、不安な事、要望等に初期に耳を傾けることで、信頼関係を確保し、その上で、ご本人が望む環境に近づけるよう努力し、主役となれる機会を作ることで、環境に早く慣れ安心した生活が出来るよう援助している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前の初期の段階で、ご家族にはきちんと説明をし、ご家族の意見や訴えには耳を傾けています。その成果か、入居後落ち着いて過ごせる方がほとんどとなっている。その状況をご家族に伝えることでご家族も安心されるよう勤めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の対応として、入居者様個人の意見要望と、ご家族の意見要望の両方に耳を傾け、照らし合わせ、サービスを導入している。他のサービス利用の一つの例として、ご本人およびご家族の意向から、医療保険を活用した訪問マッサージを活用している方もいる。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活全般で、利用者の方々が残された機能により出来ることは、皆様が手分けして出来る限り行えるように、職員が協力をしながら提供している。また利用者の方々の出来ないところを職員がお手伝いする事で「ありがとう。」の言葉が施設内に飛び交っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での出来事や日常の様子はご家族の面会時に必ずお伝えし、情報を共有できるよう勤めている。またご家族に協力を仰ぎ行っているご本人のニーズ対応もあり、ご家族と一体になってのケアを実現している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	中にはご友人が良く面会に来られる利用者様もいる。しかし、ご家族との関係が悪くなり入居となった方もあり、まずは、ご本人とご家族との関係改善に勤めてういるケースもあるので、利用者によってケースバイケースではあるが施設としては支援に努めて行く所存。		近所にいる友人の来所や畑仕事をしている近隣者とふれ合いがあり、野菜や果物をいただいている。家族に電話をしたり、手紙を出している。家族の支援で外出や外泊、回転すし、馴染みの焼そば屋等の外食に出かける。クリスチャンの利用者に牧師が来訪して話しをしてくれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現在の8名は時には喧嘩もするが、自室に籠もり過ごされる方はおらず自分から望んでダイールームで他者と過ごすことを楽しんでいる。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケース無し。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	最大限に努力し、努めている。自分の思いを伝えられない利用者様には既往歴や行動、言動からケアの検討をし、ご家族に説明し同意を得た上でケアを実施している。		日々の生活の中から本人の希望や要望を聞きながら、意向に沿う支援を行っている。意志疎通が困難な利用者には家族から情報・意見をj得ている。寄り添いながら、表情や行動を把握して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様、個人個人のご家族よりその都度得た情報を大切に経過支援記録に記載し、次期計画書作成時に役立つよう勤めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人介護記録にその日の変わった様子は記載している。また上手い対応は、職員ノートを使い情報共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	行えていると思う。		本人や家族から思いや意向を聞き、反映している。職員が係わりの中で気づきを記入してミーティング等で課題を明らかにし、プランを作成。6か月の支援実施でモニタリング、評価、その状況に合った継続や変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人介護記録にその日の変わった様子は記載している。また上手い対応は、職員ノートを使い情報共有している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1 )	ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援やサービスのニーズへの対応は積極的に行い、取り組んでいます。例に上げますと、ご家族が定期受診に連れて行けない事情が発生した際は、有料にて対応しています。必要とされる福祉用具があるときは、業者を呼んでご家族とつなげています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の希望に対して、専門家を組み込み対応しているケースあり。(訪問マッサージ)地域のお店での散歩兼買い物や、お寿司などの外食。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要なケースは主治医との連携を同意のもの行わせてもらっている。		利用者全員がかかりつけ医で家族が対応をしている。受診時は日常生活や体温、血圧等の情報を持参してもらい、医師からの情報は家族からの報告で管理者に伝えられ介護経過支援記録にて職員が共有している。家族が対応できない場合は有料にて職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ていると思います。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	5月に入院が必要になったケースあり。利用者様が落ち着き無くなったとの事にてこまめに病院へ足を運ぶと、落ち着いたとのケースがあったとのこと。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設は看取りを行っている為、入居時、今後どのようなステージまでグループホームでの生活を望まれるか確認していますが、まだケースは無いです。一人夏に体調が悪くなった方が居て、その時には家族を呼んで、経営者、代表、管理者、看護師同席にて看取りの詳しい指針をご家族から伺いました。その後体調改善により看取りのケースは無しです。		入居時家族と看取りに付いての要望等の話をしている。半数以上は事業所での看取りを希望している。訪問看護との契約をしている。かかりつけ医の往診も得られる。体調が悪くなり家族と再度検討の場を持ったが、体調が改善された事例もある。職員間の対応については今後の課題とした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	11月29日に職員を始め、地域の方々を集めて普通救命講習を行います。緊急時の対応マニュアルも設けています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	トイレトペーパーや食料の備蓄や避難器具などの災害対策は行っています。また次回の南アルプス市施設間会議にて話し合いをし、災害時どのように行動などを行っていくか決める手はずとなっています。		避難経路を利用者と共に月1回確認している。南アルプス施設部会の「災害時の協力体制について」の話し合いに参加して検討している。水、米、即席麺等備蓄は調えている。	夜間を想定しての初期消火、避難方法、通報等、夜勤を行う職員が日々の中で訓練を実践し、訓練後実施内容、反省、感想等の記録しておくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「臭い」「汚い」など言っちゃいけない言葉の『禁句集』など使い勉強会を開いたことはありますが、その都度気になる言葉に関しては、職員が声を掛けお互いに注意しあうようにしている。		居室に入る際は本人の許可を得て入り。筆筒への衣類の出し入れは言葉を添えながら利用者と一緒に、着る物も一緒に選んでいる。汚れた物はさり気なく対応している。トイレ時は言葉をかけて外で様子を見守り、対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1 )	ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お手伝いや、運動など1日のうち活動はたくさんありますが、取り組みたいものなど自己決定を大切に、促しを行いながら提供しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間に追われ、急がしてしまうような対応を行ってしまった際は、職員間でお互いに声掛けてクールダウンし助け合い再援助を行うようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	中には言われることを嫌がる方もいますが、さりげないお手伝いで対応している方もいます。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理下ごしらえや食事に関しては、一緒に行ったり、昔の食事に関する話題を出したりしながら取り組んでいます。片付けに関しては、洗った後のお皿拭きを利用者様に一緒にお手伝いをしていただきながら、自宅に居る様な生活を楽しんでいただいています。		献立はその日の食材に合わせて利用者の要望を含めて一緒に食事を作っている。利用者は皮をむく、切る、配膳、下膳の手伝い等行い、食器洗いや拭くこと、洗濯物たたみ、雑巾縫い、モツ掛け等積極的に励んでいる。お茶はテーブルの上に置いて自由に飲むようにしている。	利用者と職員が同じ食卓を囲んで同じものを楽しく食べる事が大切といわれています。一連の作業は利用者と共に行っているため、食事も一緒に楽しみながら食べる事を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取に制限がある方はチェックシートを活用。その他、血圧の低い方などは気をつけて促しを行い多めに摂取できるよう援助して個人個人にあった支援をしています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っています。夜間の義歯管理は職員が行わせていただいています。日中は見守り声掛けにて、1名口腔清式対応の方もいらっしゃいます。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っています。失禁のタイプにもよりますが切迫性の方に対しては、こまめに声掛けを行いながら対応しています。		排泄チェック表を使用し、パターンを把握して利用者に応じた声掛けをして支援している。歩行困難な利用者はその都度手を添えて支援している。尿取パットとリハビリパンツを使っている方が、自分でズボン上げるのが困難ということで、家族と検討し、リハビリパンツのみでの対応となり自分でズボンが上げられるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	行っています。毎日の食事からの支援や、個人個人に残された機能を使った運動などを働きかけ、予防しています。また訪問マッサージで腸の活性化を図っている方もいますし、歩行の目標を立て取り組んでいる方もいます。よって、出来ているものと判断します。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月・水・金曜日は殿方の日。火・木・土曜日は姫方の日と入浴日を分けています。声掛けに嫌がる方は見られていないので、個々に沿っていると考えるのではと思います。また、拒否などがあつた場合には、個人の意向に添った入浴を心がけます。		男性、女性と入浴日は分かれているが、一日中利用できる。入浴拒否や一番風呂希望の利用者にも対応を心掛けている。利用者に応じたイス利用の工夫、個人の好みのシャンプー、リンス、ボディソープ、洗顔石鹸等家族持ってきたり、預かり小口現金から購入して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人を尊重し、就寝時間は個々の希望に任せていますので、支援出来ていると思います。個人の希望に任せているため、就寝時間や休息の時間は日によって少し変わる事もあります。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師によって薬の理解を他の職員もする様にし、看護師や職員によって変化が見られるときは、主治医に状況を伝え、随時対応しています。服薬との食べあわせが悪いものに関しては職員内で周知しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆様、なかなか個々では集中力が続かず、皆様と同じことを行うことを好まれています、張り合いや喜びごとのある日々を過ごせる様に、皆様で楽しめる事や気分転換になる事を毎日支援する事によって、明るい笑顔が沢山増えて来ています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご近所の食品館や和菓子屋までは行けても、個人個人の希望を満たす迄は、まだ取り組めていません。しかし、お寿司が食べたいという意見があった際に、回転寿司に入居者様と職員とで外食に行った事はあります。		共有のホールからスロープで出入りできる中庭で自由に散歩し、日光浴等楽しんでいる。風呂上りテラスの椅子に座って涼んでいた。誕生日会の写真は中庭で映す希望者が多い。紅葉見学に行っているが、今後も積極的に外出支援を行っていく。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理でお金を持たれている方もいますが、その他の利用者様は、ご家族の希望により、施設で管理をしてお金を預かるよう頼まれています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者に対しては電話の使用など援助しています。手紙は未だ希望がありませんが、今後、手紙のやり取りを希望される方がいらっしゃいましたら協力支援致します。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の部屋の理解やプライバシー保護の為、入居時自宅より暖簾をお持ち頂き自室前にかけるようにし各々自由に居室をアレンジし自宅の様に過ごしています。天窗を沢山設けて明るく保ち、共有部分は無駄な物を置かず広々とし音楽を流したりしてます。浴室も明るく温かく温泉の様な雰囲気を出しています。		共有のホールの壁に利用者が作製した不織布でつくった花が微風で揺れて夢の様な心地よさがある。廊下には量の大型の椅子があり、歩行訓練時の休憩もできる。椅子の中に紙おむつ、バットを収納し、アクティビティ等の使用をしている。台所は対面式で利用者が使いやすく匂い、音、手触りが充分に出来る。風呂の棚、洗面所の収納棚に工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なじみのある寝具、家具などある方は、なるべく持ち込んでいただくようにしています。ご自分専用の電化製品や、亡くなったご主人の写真や、可愛がっていた猫の写真を飾ったり、思い出の品を持ち込んだりして、本当の自宅の様に入居していらっしゃる方もいます。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しでもできるのにやっていた事に目をむけ自立できることを増やせるよう援助しています。少しだけ出来ない事は支援し、少しでも出来る事になる様に、建物内部のトイレや居室にナースコールを付けて、困った事の自立に繋がるお手伝いをしています。		居室の入口の暖簾は家族が作って持って来ている。居室には利用者の使い慣れた布団、テレビ、鏡台、化粧品、位牌、スタンド、冷蔵庫、等が持ち込まれて利用者の居心地のよさを配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しでもできるのにやっていた事に目をむけ自立できることを増やせるよう援助しています。			